

# 2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術

## 解決したい課題・研究開発目標

### 解決したい課題

- 地域のことに誰もが無関心で、課題解決に向けて協力する術を持たない地域社会  
(コミュニティの多元的無知・傍観者的無関心状況)

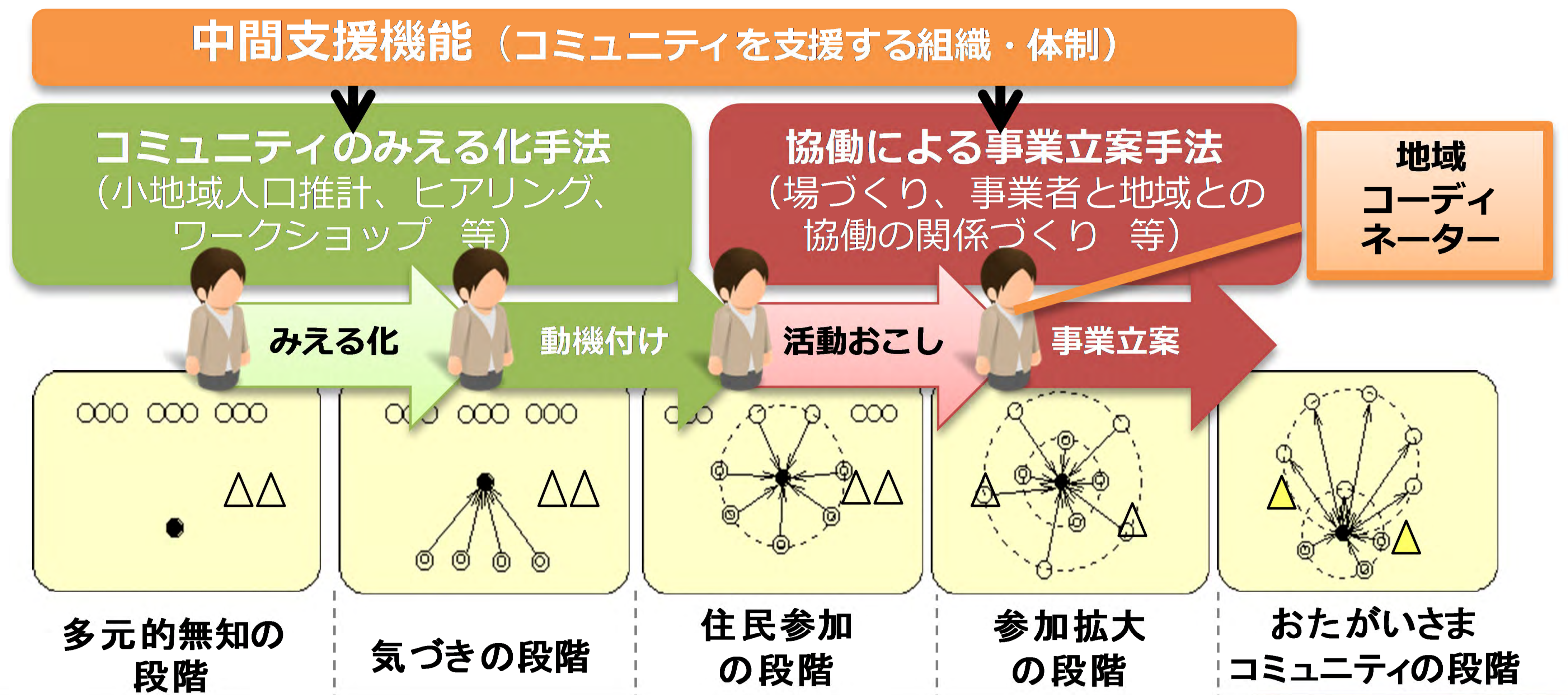
### 目指す社会像・研究開発目標

- 住民・企業・行政等が行動原理の違いを乗り越え、地域課題を協働して解決する関係性を備えた地域  
(機能統合型コミュニティ=おたがいさまコミュニティ)の形成
- 協働関係を築くための「地域コーディネーター」の支援手法とその「中間支援機能」の開発

## プロジェクトの実施方法

### プロジェクトの展開方法

- 地域に関わるステークホルダーの参加度合いに5つの段階を仮定
- 地域コーディネーターを配置し段階移行を支援
- 中間支援機能がコーディネーターを後方支援
- 参加型アクションリサーチによる支援手法の開発



地域コーディネーターの支援内容	地域	地域の状態 → 到達目標				
		地域の状態	到達目標	支援	支援	
<b>地域向け</b> ・統計データ作成 ・ステークホルダー分析等  <b>事業者向け</b> ・企業ヒアリング ・セミナー  <b>行政・関係機関とのネットワーク</b> ・行政データの提供 ・地域関係者の紹介  ・おたがいさまコミュニティフォーラム ・おたがいさまコミュニティサロン ・おたがいさまコミュニティセッション ・地域視察プログラム ・地域と事業者の会議  ・助成・補助による支援 ・関係機関の専門的支援	<b>金山校区</b> 	アセスメント・支援 ・協力体制の構築 ・ワークショップの実施	地域の状態 → 到達目標 支援 ・トライアル事業の実施	支援 ・場づくりの側面支援 ・事業者のコーディネート等	到達目標 多世代・事業者が参加するコミュニティカフェ事業	
	<b>美和台校区</b> 	アセスメント・支援 ・協力体制の構築 ・多世代へのヒアリング ・ワークショップの実施	地域の状態 → 到達目標 支援 ・トライアル事業(試行)	支援 ・協力体制の構築 ・事業者のコーディネート ・対話の場づくり	支援 ・地域・事業者の協働事業立案ワークショップ	到達目標 学校法人と地域との協働事業立案ワークショップ
	<b>照葉校区</b> 	地域の状態 → 到達目標 アセスメント・支援 ・協力体制の構築 ・ワークショップの実施 ・多世代へのヒアリング ・スタディーツアー	地域・事業者が対話できるフォーラム	到達目標 学校法人と地域との協働事業立案ワークショップ		

## 対象コミュニティ・研究開発体制

【対象コミュニティ】 福岡市金山小学校区、美和台小学校区、照葉小学校区

【研究開発体制】 特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター、公益財団法人九州経済調査協会、福岡市総務企画局・保健福祉局



## プロジェクトの成果と今後の展望

### プロジェクトの成果(開発した社会技術)

- 「地域コーディネーター」が「コミュニティの見える化手法」や「協働の事業立案手法」を持って関わることによって、各実施校区におけるステークホルダーの参加の段階をステップアップさせることができた
- 「地域コーディネーター」が手法を用いることで、どの段階の住民参加段階にある地域からの支援要請に対しても、現状からステップアップさせる支援が可能になるという結果が得られた
- 地域コーディネーターと中間支援機能による支援体制は、現在政策的に進められている住民参加に対する人的支援「集落支援員」「地域おこし協力隊」「田舎で働き隊」「ライフサポートアドバイザー」「生活支援コーディネーター」「コミュニティ・ソーシャルワーカー」などに応用可能である

### 1. 地域コーディネーターと中間支援機能の役割の明確化

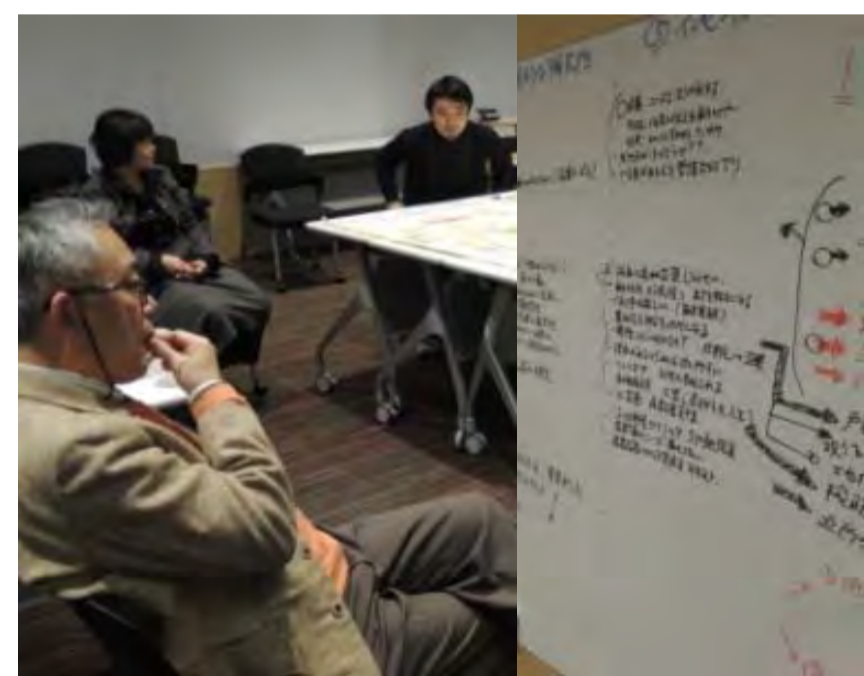
#### ■地域コーディネーターの役割

- 関係性を構築するために地域に直接関与する
  - ・ステークホルダーが地域課題を自ら発見することを支援する
  - ・協働して課題を解決できるような行動変容・関係づくりを支援する



#### ■中間支援機能の役割

- 地域コーディネーターの後方支援
  - ・事業者・行政・専門機関との関係づくり
  - ・地域コーディネーター向けのデータ・情報・ツールの提供
  - ・地域段階の評価
  - ・地域コーディネーターの養成



### 2. 支援実務フローと手引きの開発

#### ①コミュニティの見える化手法

- 地域や事業者等が地域課題を「他人(よそ)事」ではなく「わが事」として捉え、解決に向けた活動を開始できるようにする。
- 地域コーディネーターが中心となって支援を行う

#### ②協働による事業立案手法

- 事業者と地域の対話を促し、協働事業を開始できるようにする
- 中間支援機能が中心となり、地域コーディネーターが補佐して支援する



### 今後の展開・展望

- 福岡市社会福祉協議会の「地域福祉コーディネーター」による「おたがいさまコミュニティ」の実装化によって、市内各地域の実態に即した全市的展開を目指す
- また民間事業者(企業、社会福祉法人、学校法人等)と地域住民活動を結ぶ中間支援機能の強化策は、福岡市版リビング・ラボ構想として検討を進めていく
- シンガポールのNational Council of Social ServicesやNational University of Singaporeとの交流によって、住区レベルにおける住民参加促進策として「コミュニティの見える化手法」がある程度有効であることが確かめられたので、今後は国際会議などを通じて、さらなる汎用化の可能性を探っていく

### プロジェクトWebサイト・お問い合わせ先

Webサイト: おたがいさまコミュニティで迎える2030年 <http://active-aging-community.info/>

お問い合わせ先: 特定非営利活動法人アジア・エイジング・ビジネスセンター [ogawat07@yahoo.co.jp](mailto:ogawat07@yahoo.co.jp)

: 公益財団法人九州経済調査協会 調査研究部 南 伸太郎 092(721)4900 [minami@kerc.or.jp](mailto:minami@kerc.or.jp)